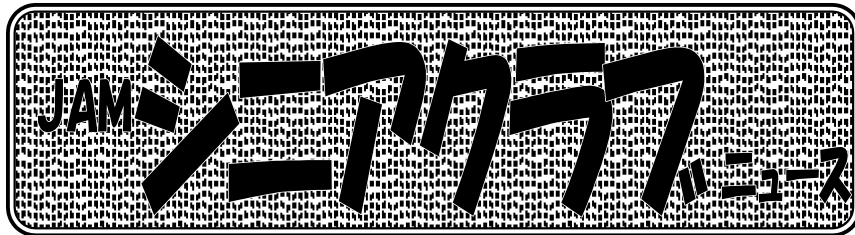


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第214号

発行日 2025年10月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

主張



「〇〇ファースト」という印象的なフレーズが飛び交うが、それが誰のための「ファースト」なのか、曖昧なまま使われていることも多い。言葉の力は強いが、実態が伴わなければ、それはただの飾り

の大会に参加してきました。歌うことは、単なる娯楽ではなく、自分の存在を社会に示す手段でもあります。大会では、同世代の仲間たちと励まし合い、若い世代とも交流することで、世代を超えた繋がりが生まれます。ステージに立つとき、私は「年齢を重ねても、夢を持ち、社

会に貢献できる」という思いを歌声に込めています。政治もまた、我々の声に耳を傾けるべきです。高齢者を「支える」対象としてではなく、「活かす」存在として捉える視点が重要です。総裁選が与党内の選挙であることは理解しているが、その先にある国政は、すべての国民の生活に直結しています。だからこそ、候補者たちには、派閥の論理だけでなく、現場の声、特にシニア世代の声に真摯に向き合ってほしい。

秋田シニアクラブ代表幹事 猪股修

「歌声に託す、シニア世代の声」

私は趣味として長年カラオケに親しみ、各地

に過ぎない。高齢者の生活は年金制度の不安、医療・介護の負担増、孤立化など、現実的な課題に直面しています。にもかかわらず、総裁選の議論に我々の声が反映されることはほとんどありません。

9月18日、東京・文京シビックホールで2025全国高齢者集会在開催されました。全国から1300人が結集、JAMシニアクラブからは東京、神奈川、千

野田代表、国民民主党浅野青年局長、社会民主党ラサル石井参議院議員からの挨拶のあと、警視庁特別防犯対策監で俳優

最後に、核兵器廃絶に向けた活動を続けている元長崎県高校生平和大使の木場笑里さんと安野美乃里さんから小学生に対する平和教育や「核兵器禁止条約締結国会議」への参加、ノーベル平和賞を遺するノルウェー・オスロへの訪問など核兵器廃絶に向けた取組みの報告がされました。

冒頭、安河内会長より、2026春季生活闘争の展望、現下の政治情勢における連合の対応等を中心に挨拶があり、シニア宮本会長からは、定期総会で確認した2026年度活動方針にふれながら、シニアクラブの基本スタンスと現役に対する

化・拡大に向け、現役の皆さんとの本音の議論を深めたいと思います。



高い、世代間対立を避けてみんなが生きやすい社会をつくりあげていくことが大切」との挨拶がありました。来賓の連合清水事務局長、立憲民主党

杉さんからは国際電話を利用した詐欺グループのオレオレ詐欺撲滅のために国際電話利用休止を推進することや、自分の人生を楽しむ幸せに生きていくにはどうしたら良いのかなどについて人生経験を交えて様々な角度からのお話を頂きました。

10月14日JAM本部会議室において第1回三役会議に引き続き、JAM現役・JAMシニアによる2026年度第1回連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、岩崎書記長、浜副書記長、椎木副書記長、丸山組織グループ長、シニアからは宮本会長をはじめ三役全員が出席しました。

具体的内容としては、①地方、単組の役員へのシニアクラブの存在と役割の周知、②単組OB組織立ち上げ支援、③個人加入の促進への支援、④大手労組への強力要請、⑤「全地協にOB会を発足する」方針の推進。

集会は、「暁鼓遊」の皆さんの盛大な和太鼓演奏で始まりました。最初に主催者を代表し野田日本退職者連合会長より「戦後80年の節目の年に核兵器廃絶と恒久平和の実現をめざしていく。高齢者の貧困率は若者より

する協力を求める挨拶がありました。このあとシニア側から、会員の減少、高齢化など厳しい組織状況や定期総会で出された意見について報告をし、シニア組織の拡大に向けて現役に対する支援の要請を行いました。

連帯強化懇談会を開催シニアクラブの会員拡大について議論、10月14日JAM本部会議室において第1回三役会議に引き続き、JAM現役・JAMシニアによる2026年度第1回連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、岩崎書記長、浜副書記長、椎木副書記長、丸山組織グループ長、シニアからは宮本会長をはじめ三役全員が出席しました。

具体的内容としては、①地方、単組の役員へのシニアクラブの存在と役割の周知、②単組OB組織立ち上げ支援、③個人加入の促進への支援、④大手労組への強力要請、⑤「全地協にOB会を発足する」方針の推進。

退職者連合

2025全国高齢者集会開催 日本退職者連合会員1300人が集う

葉、埼玉の会員26人が参加しました。

利用した詐欺グループのオレオレ詐欺撲滅のために国際電話利用休止を推進することや、自分の人生を楽しむ幸せに生きていくにはどうしたら良いのかなどについて人生経験を交えて様々な角度からのお話を頂きました。

10月14日JAM本部会議室において第1回三役会議に引き続き、JAM現役・JAMシニアによる2026年度第1回連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、岩崎書記長、浜副書記長、椎木副書記長、丸山組織グループ長、シニアからは宮本会長をはじめ三役全員が出席しました。

具体的内容としては、①地方、単組の役員へのシニアクラブの存在と役割の周知、②単組OB組織立ち上げ支援、③個人加入の促進への支援、④大手労組への強力要請、⑤「全地協にOB会を発足する」方針の推進。

大阪
定期総会を開催
原正巳 事務局次長



議員団久保元高槻市議会議員、近畿労金天羽本部長、こくみん共済ＣＯＯＰ田邊副本部長。

その後、活動報告、決算、活動計画、予算の提起を行いました。

強調されたのは、①減少を続ける会員の拡大の取り組み強化、10%の会員拡大、②2016年以降、JAMとして9年ぶりに議席を奪還した郡山りよう参議院議員をはじめ、退職者連合、連合と連携を強化して政策制度要求実現、とくに、年金・医療・介護保険制度改悪反対の取り組み強化、③平和と人権を守る取組み、とりわけ、連合、原水禁団体が取り組む「核兵器廃絶1000万署名」活動の展開等々。以上、参加者の補強意見のあと、総会で提案事項について全体確認が行なわれました。

最後に、欠員補強を含め、新年度の役員選出を行い、再任された清水代表幹事の発声で、「がんばろう」を三唱し総会を終了しました。

総会に先立ち、研修会として「認知症を遠ざけるー予防・改善ポイント」の講義を受けました。

JAMシニアクラブからは、大山勝也さんのあとを継いだ宮本礼一新会長、大阪退職者連合徳永会長、JAM大阪清水書記長、JAM大阪組織内

イドベータが蓄積し認知症を発症させる」として「『グルテンーリーキーガット症候群』という身体に炎症を引き起こす食物を避ける。主食は米に、小麦粉の少ないものに、添加物の少ないものに従量」、②「少しずつ水分補給に心がける。目標は、体重×30ミリリットル」と説明され、最後に「血糖値スパイク 認知症予防」を検索し、認知症予防と呼びかけられました。

群馬
定期総会を開催
鈴木英二 事務局次長

群馬シニアクラブは、第23回定期総会を10月2日、前橋市「群馬県勤労福祉センター」で開催しました。

総会では、中川文雄会長が「郡山りよう参議院



議員を誕生させることができた。村田きようこ参議院議員とタッグを組んで政策制度課題を前進させてほしい。年金、介護、医療を充実させ、生き生きと安心できる社会を実現しよう」と主催者挨拶を行いました。

来賓として、JAMシニアクラブの那珂通敏副会長、JAM北関東群馬県連の柳澤貴史副会長が挨拶され、郡山りよう参議院議員と村田きようこ参議院議員のメッセージが披露されました。

議事では、2025年度活動報告、会計報告、会計監査報告をそれぞれ承認するとともに、2026年度活動計画・予算を承認しました。活動計画では、①組織拡大、②JAM北関東と連携した政策実現、③安心した社会保障、④会員交流行事などの取り組みを確認しました。

また、総会終了後の研修会では、来賓で挨拶いただいた那珂副会長に引き続き講師として「少子化問題の現状と今後の課題」をテーマに報告をいただきました。那珂副会長は、人口構造の推移や若者の意識変化など各種統計の解説を行うとともに、「少子化対策は国家の発展のためではなく、国民一人一人の幸福につ

ながるものでなければならぬ」と少子化対策の原則などについて述べられました。

東京
定期総会を開催
平木和裕 幹事

東京シニアクラブは、10月8日、金属労働会館に於いて25回定期総会を開催し、役員、会員、来賓計41名が出席、来賓のJAMシニアクラブ宮本会長、JAM東京千葉土屋執行委員長、JAM千葉シニア長岡会長、東京高退連遠藤会長の挨拶のあと、郡山りよう参議院議員と村田きようこ参議院議員のメッセージが披露されました。

大会議長岡本修さん（東京航空計器）の議事進行で過年度経過・決算報告。新年度の活動方針・予算。役員の一部交代について審議しました。

提案の主な活動方針は、①会員拡大への取り組み、10%拡大を目標に現役と連携を強化し4地協OB会と積極的な交流を推進、②会員相互の交流を深める活動、「東京街歩き」の年2回程度の開催、③政策制度要求への取り組み、安心して暮らせる年金・医療・介護・認知症対策の確立、健康保険証の廃止の撤回、④政策実現活動の推進、郡山りよう氏と村田きよ

うこ氏と共に政策制度要求の実現、⑤千葉シニアクラブとの交流。

この活動方針と予算、役員の一部交代を満場一致で確認、岩本副会長の「がんばろう」で総会を締め括りました。

総会に先立ち、学習会では「自分事としての介護」の講義を受けました。講師の東京消費者総合センターの待鳥美津子さんから、快適な介護サービスを受けるために大切なことは、自分で介護の負担を抱え込まずに地域包括支援センターに相談して下さい。また問題点がある「身元保証等高齢者サポート事業」の契約は慌てず、今後の国の動向をよく確認して検討することが大切と説明を受けました。

